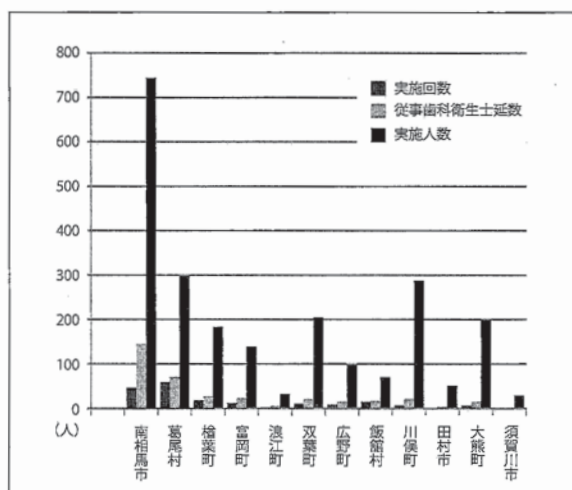


平成28年度被災者口腔ケア支援事業実施状況

1.被災市町村への支援状況

市町村名	実施回数	従事歯科衛生士延数	実施人数
南相馬市	47	145	745
葛尾村	59	71	298
檜葉町	19	28	184
富岡町	12	24	140
浪江町	3	6	33
双葉町	11	21	204
広野町	9	16	98
飯舘村	16	18	71
川俣町	8	21	288
田村市	2	4	51
大熊町	7	16	198
須賀川市	1	2	29
合計	194	372	2,339

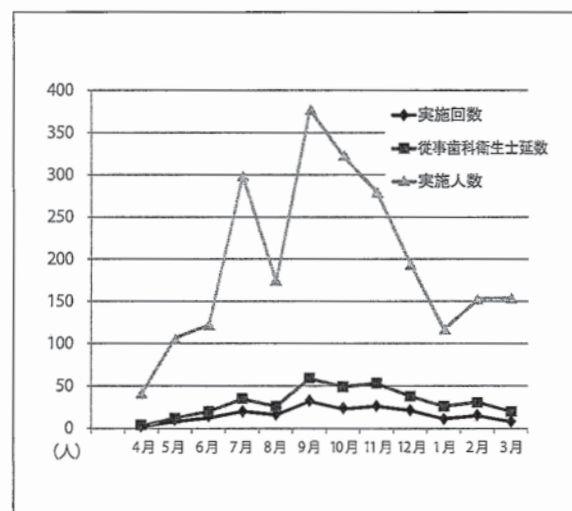


大熊町への支援の中に広野町、檜葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、葛尾村、浪江町の共同実施で行った乳幼児健康相談会の実績が含まれている。

実施回数、従事歯科衛生士延数は、南相馬市、葛尾村が多く、実施人数は、南相馬市が最も多く、次いで葛尾村、川俣町であった。

2.被災市町村への月別支援状況

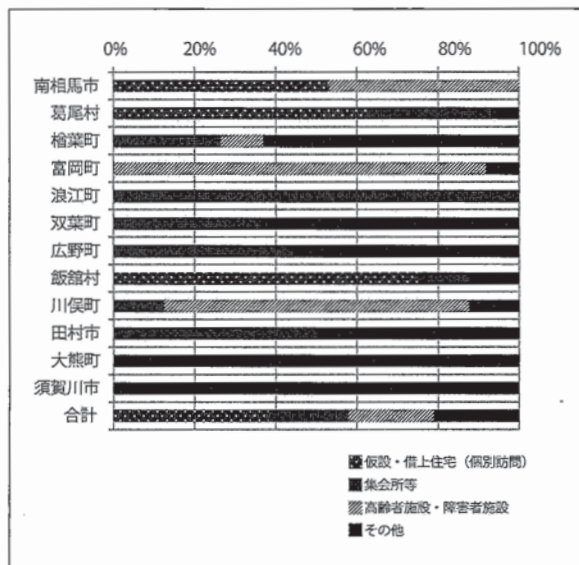
月別	実施回数	従事歯科衛生士延数	実施人数
4月	2	3	41
5月	8	12	107
6月	12	20	122
7月	20	35	299
8月	16	26	174
9月	32	59	377
10月	23	49	322
11月	26	53	279
12月	21	38	194
1月	11	26	117
2月	15	31	153
3月	8	20	154
合計	194	372	2,339



支援活動は、4月から開始したところは少なく、7月から12月にかけての実施が多かった。従事歯科衛生士延数、実施人数は、実施回数に比例して多くなっていた。

3.被災市町村における活動場所別実施回数

市町村名	仮設・借上住宅 (個別訪問)	集会所等	高齢者施設・ 障害者施設	その他	合 計
南相馬市	25	0	22	0	47
葛尾村	37	18	0	4	59
楡葉町	0	5	2	12	19
富岡町	0	0	11	1	12
浪江町	0	3	0	0	3
双葉町	0	4	0	7	11
広野町	0	4	0	5	9
飯館村	12	2	0	2	16
川俣町	0	1	6	1	8
田村市	0	1	0	1	2
大熊町	0	0	0	7	7
須賀川市	0	0	0	1	1
合 計	74	38	41	41	194



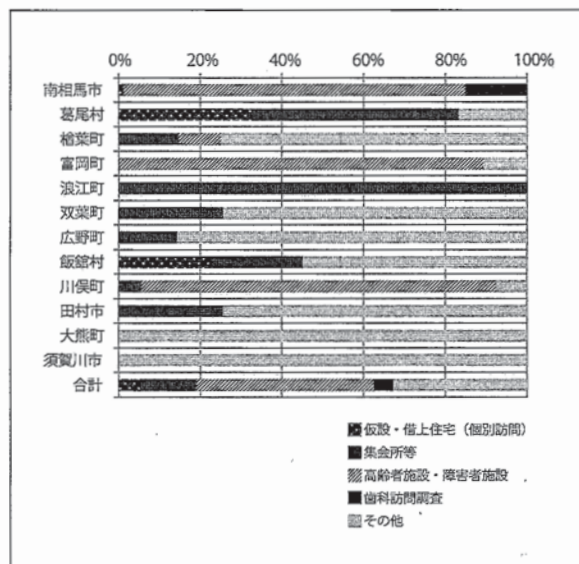
支援場所別実施回数をみると、仮設・借上住宅の個別訪問は、葛尾村が最も多く、次いで南相馬市であった。集会所等での支援は、葛尾村が多かったが、各市町村とも年々減ってきている。

高齢者施設・障害者施設での支援は、南相馬市、富岡町、川俣町の順であった。

全体でみると個別訪問38.2%、集会所等での支援19.6%、施設等での支援21.1%、その他21.1%で個別訪問での支援が最も多かった。

4.被災市町村における支援内容別実施人数

市町村名	仮設・借上住宅 (個別訪問)	集会所等	高齢者施設・ 障害者施設	歯科訪問 調査	その他	合 計
南相馬市	9	0	623	113	0	745
葛尾村	98	150	0	0	50	298
楡葉町	0	27	19	0	138	184
富岡町	0	0	125	0	15	140
浪江町	0	33	0	0	0	33
双葉町	0	52	0	0	152	204
広野町	0	14	0	0	84	98
飯館村	16	16	0	0	39	71
川俣町	0	16	250	0	22	288
田村市	0	13	0	0	38	51
大熊町	0	0	0	0	198	198
須賀川市	0	0	0	0	29	29
合 計	123	321	1,017	113	765	2,339



仮設・借上住宅の個別訪問で、最も多かったのは葛尾村であった。

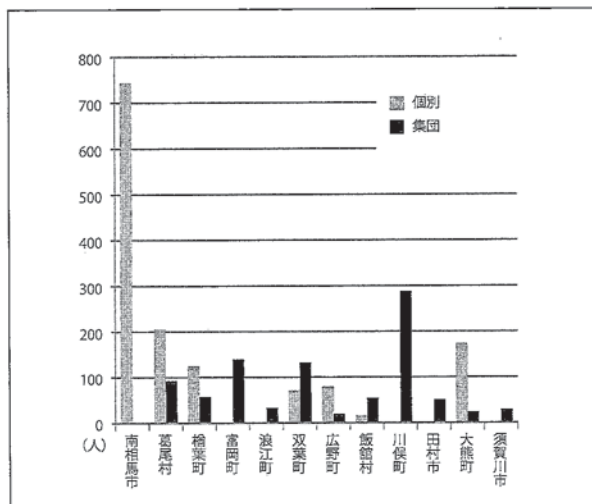
平成28年度から取り組んだ歯科訪問調査については、南相馬市のみが実施した。

集会所での支援は、特に葛尾村が多く、次いで双葉町であった。高齢者施設・障害者施設での支援は、南相馬市が最も多く、次いで、川俣町、富岡町であった。

全体でみると、仮設・借上の個別訪問10.1%、集会所等が13.7%、施設等が43.5%、その他32.8%で施設等での支援が最も多かった。

5.支援方法（個別・集団）別実施人数

市町村名	個別	集団	合計
南相馬市	745	0	745
葛尾村	205	93	298
楡葉町	126	58	184
富岡町	0	140	140
浪江町	0	33	33
双葉町	71	133	204
広野町	79	19	98
飯舘村	16	55	71
川俣町	0	288	288
田村市	0	51	51
大熊町	174	24	198
須賀川市	0	29	29
合計	1,416	923	2,339



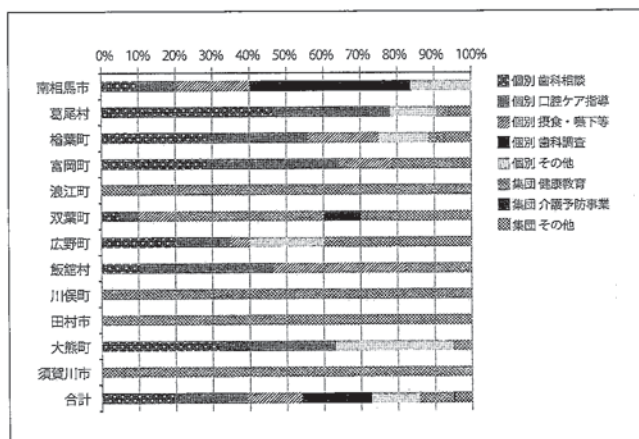
全体の60.5%は個別での支援、39.5%は集団への支援であった。

個別支援は、南相馬市が最も多く、次いで葛尾村、大熊町であった。

集団支援は、川俣町、富岡町、双葉町の順で、高齢者施設での支援が多かった。

6.具体的支援内容別実施状況

市町村名	個 別					集 団			合計
	歯科相談	口腔ケア指導	摂食・嚥下等	歯科調査	その他	健康教育	介護予防事業	その他	
南相馬市	17	22	37	82	31	0	0	0	189
葛尾村	30	20	0	0	8	2	0	4	64
楡葉町	15	14	10	0	7	2	0	4	52
富岡町	8	10	4	0	0	5	0	1	28
浪江町	0	0	0	0	0	3	0	0	3
双葉町	1	1	2	0	0	8	2	6	20
広野町	4	3	1	0	4	4	0	4	20
飯舘村	3	10	10	0	0	5	0	0	28
川俣町	0	0	0	0	0	8	0	0	8
田村市	0	0	0	0	0	1	0	1	2
大熊町	6	6	0	0	6	1	0	0	19
須賀川市	0	0	0	0	0	1	0	0	1
合計	84	86	64	82	56	40	2	20	434



※ 1回の実施において、複数の支援内容を計上しています。

支援活動の内容別実施状況をみると、個別口腔ケア指導が全体の19.8%と最も多く、次いで個別歯科相談19.4%、歯科調査18.9%、摂食嚥下指導・嚥下体操等14.7%、集団健康教育9.2%であった。その他は、食生活指導、こども園等での支援、住民健診、クッキング教室、施設の職員指導等であった。

7. 歯科訪問調査結果

① 実施状況

訪問件数	不在件数	面接件数	歯科調査件数
135	22	113	82

② 面接状況（113人）

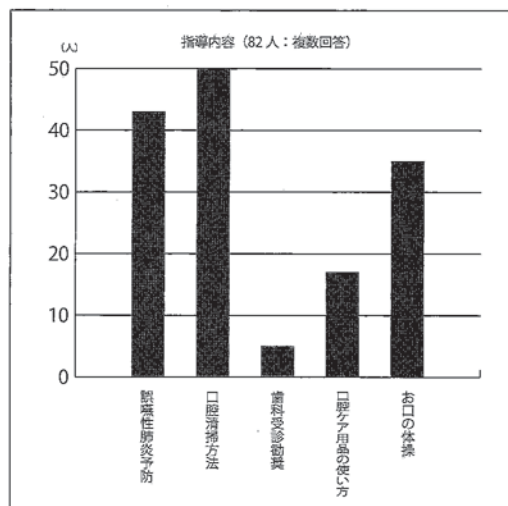
	人数
歯科調査	82
資料配付	31

③ 継続支援の要否（82人）

	人数
継続必要	9
継続不要	73

④ 支援内容（82人：複数回答）

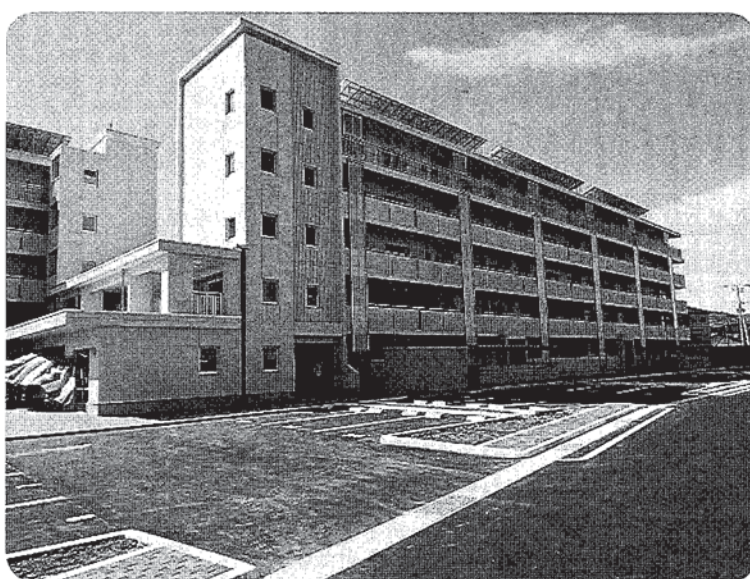
指導内容	人数
誤嚥性肺炎予防	43
口腔清掃方法	50
歯科受診勧奨	5
口腔ケア用品の使い方	17
お口の体操	35



歯科訪問調査を希望した市町村は南相馬市のみであった。

支援内容で一番多かったのは口腔清掃方法で、次に誤嚥性肺炎予防であった。

歯科訪問調査



南相馬市災害公営住宅

仮設・借上げ住宅での支援



お口の中を見てみましょう！！



舌の体操・パ・タ・カ・ラ発音で
口腔機能をアップしましょう！

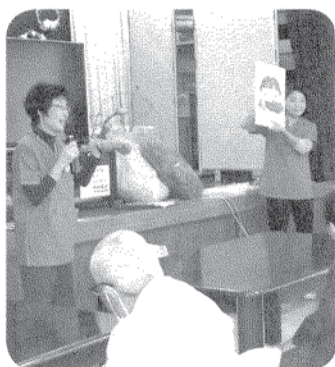


歯ごたえのある食事
よくかんで食べましょう！！



歯ぐきからの出血が
なくなりました(^o^)

高齢者施設等での支援



お口の体操をしましょう！！



口腔ケアの準備



ぶくぶくうがいで、
お口をきれいに、
口輪筋も鍛えましょう！！





子ども達への支援



被災者口腔ケア支援事業に5年間取り組んで

平成24年度から福島県からの委託を受けて取り組んできました「被災者口腔ケア支援事業」も、平成29年3月31日をもって終了いたしました。この5年間は、被災者だけではなく、事業に従事した歯科衛生士にとっても大変貴重な経験となり、臨床とはまた違った「やりがい」や「達成感」を感じながら取り組むことができました。避難指示が解除され、住民の帰還と復興に向かって歩んでいます。自宅に戻れず仮設住宅、借上げ住宅等で暮らす被災者の方々もまだまだいますので、今後も歯科衛生士の支援を希望する市町村については、状況に応じてできる限りの協力を行っていきたいと考えています。

この5年間の活動を通して、歯科衛生士が被災者支援を行うにあたって重視すべき点や、平成28年度の活動を終えて見えてきた課題についてまとめてみましたので、今後の被災者支援活動の参考にさせていただきたい。

1. 個別への支援活動で重視すべき点

(1) 受容的対応

被災者の話に傾聴する姿勢を持ち、その人が抱えている問題を見極め、その問題を解決できるように他職種との連携や情報共有を図る。

(2) セルフケアの維持・向上

被災者のセルフケア能力が維持できるように、または高まるように、支援しすぎることのないよう必要な支援を判断して行う。

(3) 潜在化している問題やニーズの把握

表面化している問題やニーズだけではなく、家庭訪問や歯科訪問調査等の情報や会話から、本人や家族が認識していない問題やニーズを把握し対応する。

2. 集団への支援活動で重視すべき点

(1) 市町村担当者と連携し、仮設住宅代表者やサロン活動担当者に被災者の口腔健康管理の必要性や対応について協力・理解を求め、できるだけ早い時期に歯科健康教育や歯科健康相談ができる体制をつくる。

(2) 他職種と連携して健康相談会（医療、保健、介護、栄養、歯科、こころのケアなど）を実施し、被災者の不安や要望に応える。

(3) 集会所活動やサロン活動等に継続して参加しやすいように、交流や憩いの場を意識した楽しいプログラムを工夫する。

3. 今後の活動に向けての課題

(1) 平成28年度に実施した仮設住宅入居者の歯科訪問調査では、特に高齢者においては口腔衛生状態の不良、むし歯・歯周病の悪化、口腔機能低下による摂食嚥下障害、義歯の不具合など、口腔に問題を抱えている人が多く見られた。しかし、それを自覚している人は少なく、歯科衛生士の訪問によって初めて口腔の健康の大切さに気づく人が多かった。このことから、地域住民や保健医療関係者に対して、平時から口腔保健に関する正しい知識・技術の普及啓発を行うとともに、高齢者の誤嚥性肺炎の予防には口腔ケアが重要であることを広く啓発していく必要がある。

(2) 避難生活の長期化により、疲労、ストレス、不眠、喪失感、閉じこもりなど、被災者の健康問題は複雑で多様化してきている。特に高齢者のADLの低下は、健康面や生活の質にも影響を及ぼし、要介護者増加の要因にもなっている。「食べる」ことは「生きる」ことであり、楽しみや体力・免疫力の低下予防にもつながることから、口腔を健全に保つことは全身の健康保持のためにも重要である。そのため、被災者の生活拠点が仮設住宅から災害公営住宅や自宅へと移っても、口腔の健康リスクの高い人については、引き続き家庭訪問等でフォローしていく必要がある。